

審判員派遣報告書

派遣事業名	国民体育大会 第42回四国ブロック大会	派遣期日	令和4年8月20日
報告者	久保理恵	派遣先	春野総合運動公園

1 大会概要

大会名称	国民体育大会 第42回四国ブロック大会	大会期間	令和4年8月20日・21日
大会概要	栃木国体に向けての四国ブロック予選会		

2 担当試合 ※（試合内容は簡潔に書いてください）

日程	令和4年8月20日	会場	春野総合運動公園
審判クルー	CC: 檜垣（愛媛） U1:久保理恵 U2:古川（徳島）		
担当試合	愛媛（少年女子） VS 高知（少年女子）		
試合内容	前半は接戦だったが、後半に入り、高知のアウトサイドシュートが立て続けに決まり、徐々にリードを広げて75-59で勝利した。		

3 大会（研修会）を通して 《 学んだこと 感じたこと 県内審判に伝えたいこと 等 》

IR 白川先生からご指摘いただいたこと

・POCについて

DFの「どこが」「どうなったから」ファウルなのかをもっと明確に持つ必要がある。

ヒットとして取り上げたケースで、身体のコンタクトのほうがインパクトがあり、ブロッキング

と

して取り上げるほうが自然なケースがあった。

・レポートミスについて

ファウルした選手の番号をレポートの際に間違えていた。（実際は8番、レポートの手は13番）

映像で見返すと、声は「8」と言っているのに、TOには8番で伝わったのかもしれない。

ファウルトラブルの少ないゲームだったから大事にならなかったものの、明らかな処置ミス

し

てしまった。気持ちが上がりがちな場面こそ、冷静に対処することの大切さを学んだ。

ポジションアジャストやベーシックメカニクスの実践など、香川IHに向けて取り組んできたことで、落ち着いてコートに立つことができた。クロック管理やチームファウルの情報共有についても、意識できるようになってきたと感じたので続けたい。プレーコーリングに関する課題は、映像検証を

繰り返し行い、現場で吹いてトライすることで解決していく。

4 その他

今回の派遣に際して、ご理解ご支援いただいた香川県バスケットボール協会の皆様、本当にありがとうございました。来年の香川全中に向けて、自分自身はもちろんのこと、U15 を中心とした全中研修生の方々とも一緒にレベルアップしていけるよう、これからも精進してまいります。引き続き、ご指導よろしくお願い致します。

審判員派遣報告書

派遣事業名	令和4年度四国地区国体予選	派遣期日	令和4年8月20日
報告者	三谷 修司	派遣先	高知県春野市

1 大会概要

大会名称	令和4年度四国地区国体予選	大会期間	令和4年8月20日
大会概要	栃木国体に向けての四国ブロック予選会		

2 担当試合 ※（試合内容は簡潔に書いてください）

日程	令和4年8月20日	会場	春野運動公園体育館
審判クルー	CC: 三谷 修司 U1:阿部（徳島） U2:川村（愛媛）		
担当試合	少年男子 徳島 VS 高知		
試合内容	高さのある徳島とスピードを生かした高知の好ゲームであった。僅差でゲームが進んでいったが、リバウンドから着実に得点を重ねた徳島の勝利となった。		

3 大会（研修会）を通して 《 学んだこと 感じたこと 県内審判に伝えたいこと 等 》

PGCの最初にそれぞれのチームの特徴、中心選手などの情報を共有した。また、両チームとも初戦で負けているため、このゲームの重要性というところの共通理解をした。

○処置ミスゼロ

まずはベーシックなメカニクスの実践を心がける。ミスを起こさないために何ができるか（クロック管理、チームファウル、同時刻入退場など）、起きた時にどう対応するかを確認。

3人で協力してファールの数を把握しながらやっていったが、TOとの連携がうまくとれず、2度ほどファールの数が合わず、中断してしまった。その結果試合時間が長くなってしまった。もう少しスムーズにゲームを進めていく工夫ができなかったかを考えたい。

ただ、その場で訂正しながら進めていったことで、ミスは防ぐことができたと思う。

○トラベリング

明らかなもの（ボールを保持したまま立ち上がったのか、ドリブルをしながら立ち上がったのか）
○ステップなのかそうでないのかなど、プライマリーが判定できていないところがあったので、映像を見返し次に繋げていきたい。

○ポジションアジャスト

3or2を中心にアングルのとり方、協力がPGCでしっかり話ができ、1ゲームを通して意識ができたと思う。

○講師より

熊谷氏から映像を見ながらいろいろと話をしてもらった。その中で、笛を吹くタイミング（ジャストで、鳴らす間）などの話や新しい試み、熊谷氏が世界選手権での経験など自分が次の繋げるための話をしていただいたので、意識をしてトライしていきたいと思う。

審判員派遣報告書

派遣事業名	第43回 国民体育大会 四国ブロック大会高知大会	派遣期日	令和4年8月21日
報告者	大西 空	派遣先	高知県高知市

1 大会概要

大会名称	第43回 国民体育大会 四国ブロック大会高知大会	大会期間	令和4年8月20日～21日
大会概要	四国4県（成年男女・少年男女）のチームで国体本戦に出場するチームを決める大会。 今年は成年男女各上位1チーム、少年男女各上位2チームが本戦に出場できる。		

2 担当試合 ※（試合内容は簡潔に書いてください）

日程	令和4年8月21日	会場	高知県春野総合運動公園体育館
審判クルー	CC: 坂田（愛媛） U1: 大西（香川） U2: 有澤（高知） IR: 白川		
担当試合	少年女子 香川 VS 高知		
試合内容	終始、香川がリードして勝利した。		

3 大会（研修会）を通して 《 学んだこと 感じたこと 県内審判に伝えたいこと 等 》

OPGC

基本的なベーシックな項目を確認しました。（メカ、プレーコーリング、トラベリング、処置ミス等）各県でoriginalなメカニクスやプレーコーリングはなく全国統一なものなので確認程度で行いました。

○ゲーム

プレーコーリングの面でクルー3人がちぐはぐな印象を受けました。あの人の前では鳴る、鳴らない。トラベリング（バイオレーション）等については明らかかなものを逃さないように。とゲームに臨んだが、判定を笛に表現できないケースが多々ありました。そういった点がベンチのフラストレーションにつながっていたと感じています。

○コミュニケーションの取り方について

OOBやバイオレーションの訂正するケースなどでのクルー間のコミュニケーションの取り方について明らかに違うケースではまずはセカンダリの行動を待って自分の知っている情報を展開、表現するという点。その時の

近寄り方。全力疾走で寄って行くと見え方として「あ、あいつまちがったのか？」などよくない印象を与えてしまう。

そんな時こそ、シャープに寄っていく、もっと見せ方の工夫が必要だと感じました。

4 その他

今後意識することとして、プライマリ、CDポジションの使い方、トラベリング等のバイオレーションもどのタイミングで成立したものなのかのデリバリーの仕方。を感じました。もっとこだわるポイント、を細かく意識して今後の審判活動を取り組んで行ければと思います。プライマリは県外に出て初めて吹く人などの時は十分に注意しなければ、良いクルーワークを発揮することができなくなると思います。まずは自分の目の前をしっかりと判定するように意識していきます。

最後になりましたが、まだまだ収まらないコロナ禍にも関わらず今回の派遣にご理解とご協力頂きました、香川県バスケットボール協会、審判委員会の皆様にありがとうございます。

今後とも、引き続きご指導よろしくお願いいたします。

審判員派遣報告書

派遣事業名	国民体育大会 第43回 ブロック大会 高知大会	派遣期日	令和4年8月21日
報告者	田中 豊弘	派遣先	高知県春野運動公園体育館

1 大会概要

大会名称	国民体育大会 第43回 ブロック大会 高知大会	大会期間	令和4年8月20日～21日
大会概要	国民体育大会の出場をかけた、成年男子、女子（出場枠1チーム）、少年男子、女子（出場枠2チーム）が予選を行う。		

2 担当試合 ※（試合内容は簡潔に書いてください）

日程	令和4年8月21日	会場	春野運動公園体育館
審判クルー	CC: 田中（香川） U1: 佐竹（高知） U2: 小谷（北海道）		
担当試合	成年男子 徳島 VS 高知		
試合内容	序盤徳島がリードするものの、留学生を有する高知が逆転し、終盤徳島の追い上げを退け勝利した。		

3 大会（研修会）を通して 《 学んだこと 感じたこと 県内審判に伝えたいこと 等 》

●ゲームの振り返り

P G C で基本的な Read rotation の確認、primary area と angle の確認、W call 時の対応、position adjust の工夫等を確認してゲームに入った事で、大きなメカのトラブルなく終えることができた。

留学生とのマッチアップについてはもう少し明確に tempo set してクリーンなペイントでのプレイをさせるよう control すべきであった。

4 その他

香川IHを終えて、次年度には香川全中を控える中でプレイコーリング、メカの重要性を認識し、県内でも同じようにレフェリング、共有をしていきたいと思えます。

派遣に際してご理解ご支援いただいた香川県バスケットボール協会の皆様、ありがとうございました。引き続きご指導よろしくお願い致します。

審判員派遣報告書

派遣事業名	国民体育大会 四国ブロック大会	派遣期日	令和4年8月20日～8月21日
報告者	藤田公介	派遣先	高知県

1 大会概要

大会名称	同上	大会期間	令和4年8月20日～8月21日
大会概要	四国4県の代表が集まり、成年はトーナメント形式で、少年はリーグ戦形式で行われる本国内の出場枠をかけたブロック大会である。		

2 担当試合 ※（試合内容は簡潔に書いてください）

日程	令和4年8月20日	会場	春野運動公園体育館
審判クルー	CC:前田（愛媛） U1:藤田 U2:山下（徳島）		
担当試合	少年男子 愛媛 VS 香川		
試合内容	スピード、得点力が上回る香川が前半からリードし、後半も得点を重ね勝利。		

日程	令和4年8月21日	会場	春野運動公園体育館
審判クルー	CC:西（徳島） U1:藤田 U2:竹内（高知）		
担当試合	成年男子決勝 愛媛 VS 高知		
試合内容	序盤から愛媛のオフェンス力・ディフェンス力が上回り、着実に得点を重ね勝利。		

・ポジションアジャスト

香川 IH のテーマの1つでもあったポジションアジャスト。T・C のポジションにいる時に、逆サイドからカールして自分のプライマリにドライブしてくるケースに対してのポジションアジャストが課題である。特に逆サイドにいるレフリーのアンクルから、カールして自分のアンクルが変わるときに、どのようにしてポジションを取るのか。ストロングサイドから C サイドへのカールドライブは、C しか最後の判定ができないので、責任は重大である。自分のプライマリに来てからポジションを考えるのではなく、身体や顔の向きから、ストロングサイドから C サイドへドライブがきそうであれば、それに備えて事前にポジションアジャストの準備をする必要がある。

・ローテーション

ローテーションについて、その目的をより一層追求していかなければいけないと感じた。L がローテーションをすることで、T と C もポジションが変わる。ポジション移動のために3人が動いている時間帯が、メカが一番弱くなってしまう。「ボールサイドツー」というベーシックを守りつつ、C がどのような状態か、L がローテーションをして C を助けるべき状況なのかを判断してローテーションをするべきかどうかを見極めたい。C が Stay with the play で見続けることができるのであれば、CDで様子を見ることも一つの選択肢である。クルーとしてより良い判定をするために必要なローテーションが、謝った判定に繋がるような状況を引き起こすことがないように、ローテーションの精度を上げたいと思う。

・プレゼンテーション

ゲームクロック 26.8 秒でタイムアウトになり、クルーでマジックタイムの確認をして試合再開。オフェンスの手の中にボールが残っている状態で 24 秒が成立したが、その時のゲームクロックが 1.6 秒だった。私が TO 席に近かったので 2.8 秒に訂正に行ったが、講師の方からは「クロックの訂正は審判の見せ場だから、その見せ方を工夫したらいいと思う。」とアドバイスをもらった。自分と TO とのやり取りだけで終わらすのではなく、それを観ているお客さんや各チームに何が起こったのかを伝えることができるような表現方法を身につけたいと思う。

最後に

多くの情報が配信・共有されている中で、「知識や情報」だけの理解で終わっていないか、改めて自分自身を見直さなければいけないと感じた。「知識や情報」は1つのツールであり、それをどうやって自分の中に落とし込み、活用し、そしてオンザコートでのアウトプットに繋げていくのか。1つ1つの行動を具体化して取り組んでいきたいと思う。

最後になりましたが、今大会に派遣して頂きまして、感謝申し上げます。今後とも、ご指導宜しくお願い致します。

審判員派遣報告書

派遣事業名	国民体育大会 第43回四国ブロック大会	派遣期日	令和4年8月21日
報告者	高田 開	派遣先	春野総合運動公園

1. 大会概要

大会名称	国民体育大会 第43回四国ブロック大会	大会期間	令和3年8月20日～8月21日
大会概要	各県4チーム（成年男子、成年女子、少年男子、少年女子）が出場し、成年カテゴリーはトーナメント戦、少年カテゴリーはリーグ戦を行い、成績上位チームが本年度栃木県で開催される全国大会への出場権を得る。		

2. 担当試合 ※（試合内容は簡潔に書いてください）

日程	令和3年8月21日	会場	春野総合運動公園
審判クルー	CC：薦田氏（愛媛）	U1：石川氏（徳島）	U2：高田
担当試合	（少年男子）愛媛 vs. 徳島		
試合内容	前半から両チーム持ち味を生かして得点を重ね一進一退の攻防を繰り広げるが、後半立ち上がりに愛媛がリードを広げる。徳島も最後まで粘りを見せるが点差を守り切った愛媛の勝利。		

3. 大会（研修会）を通して 《 学んだこと 感じたこと 県内審判に伝えたいこと 等 》

香川インターハイを終えて最初の公式戦となった今大会、2年間のインターハイ研修で重点的に学んだポジションアジャストを再度徹底して行うこと、加えてかねてより私自身の課題としていたプレーの見極め（プレーコーリングの質の向上）を目標に臨んだ。

今回のゲームを終えて私自身の一番の反省点は、プライマリへの責任と実践である。私自身がプライマリであるプレーに対し、判定に至らなかったものがいくつかあった。それらのプレーに対してゲーム中に感じた反省とIR柏原氏の講評の内容が一致していたため、プライマリについて理解できていないわけではないが、実践に至っていないのだと感じた。具体的に、私自身がTやCでいるとき、ゴールに向かう（自分から離れていく）プレーに対してオープンアングルを確保するため位置を変えたが、動いたが先の場所から、自分の近くにいるプレーヤーによってクローズアングルになってしまったケースが2回あった。ゴールに向かうプレーはボールマンとそのDFを追ってポジションアジャストしがちだが、そうした場面でも自身のプライマリにいるプレーヤーの位置を把握して最適なポジションを探さなければいけないと感じた。当たり前といえば当たり前ではあるが、自身のプライマリを逃さず、確実に判定に繋げるため必要なことだと感じた。

また、自身の審査ゲームでもあったため、プレゼンテーションと声を使うことを強く意識して臨んだ。この点に関しては講評でもよかった点として挙げていただいたが、現在ブロック講習生としてA級を目指すうえで自身に求められることとして、ブロック大会レベルでCCが担当できること、もっとゲームをリードしていく姿勢が欲しい言われた。ただ機械的に情報を声に出すだけでなく、ゲームにコントロールするために必要な声、コミュニケーションを審判クルー、プレイヤー、コーチととれるようにならなければならないと感じた。

これから県内の大会が続いていくが、先日の香川インターハイ、ブロック国体予選で得た課題を確実に克服し、私自身一層研鑽することに加え、これまで学んだことを県内審判員と共有し、組織一丸となって成長できる環境構築に貢献したい。来年の香川全中では、香川インターハイで学んだことがより高いレベルで実践できるように準備していきたい。

4. その他

この度は、国体予選に派遣いただきまして誠にありがとうございました。仲地審判長をはじめ、日ごろお世話いただいております上級審判員の皆様に深く感謝申し上げます。

学んだことを確実に自分の力にするとともに、今後の県内活動において皆様に共有して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。